

24年度完工へ道険しく

東北電 東通原発審査申請から8年



東北電力が東通原発（東通村）の新規制準への適合性を申請してから10日で8年となった。長期化した審査は「横浜断層」に代表される敷地に最も近い活断層で主要な議論が終り、当初よりも大きな揺れが生じる可能性を考慮したため、耐震設計の目途となる揺れ（基準地震動）の引き上げは避けられない見通しだ。審査は序盤のヤマ場を越えつつあるが、目途とする2024年度の完工達成に向けた道筋は通じていない。（若岡修平、松嶋広幸）

基準地震動、引き上げ不可避

東北電力は14年6月10日に審査を申請。断層の活動性を巡る議論に6年を要し、21年4月に5年度目の完工目標延期を表明した。施設本体の審査に進展は、まずは基準地震動や基準津波（想定される最大規模の津波）を決める必要がある。横浜断層は敷地西方の陸地を陸奥湾沿いに南北に走り、地中で西側に傾く断層。震源となった場合に最も影響を与えるとして、東北電はその評価に基き、地震動を600ガルとしてきた。一方、これまでの審査で、地質構造からほかの活断層が存在する可能性が浮上。このため東北電は横浜断層とは別に長さ20キロ、地中で東側に傾く仮想断層を設定し、この場合地震動は最大654ガルになると想定。原子力規制委員会のおおむね同意と評価した。一部議論が残るため、東北電は現時点で明言を避けるが、これまで検討した地震動を包摂する基準地震動

東北電は14年6月10日に審査を申請。断層の活動性を巡る議論に6年を要し、21年4月に5年度目の完工目標延期を表明した。施設本体の審査に進展は、まずは基準地震動や基準津波（想定される最大規模の津波）を決める必要がある。横浜断層は敷地西方の陸地を陸奥湾沿いに南北に走り、地中で西側に傾く断層。震源となった場合に最も影響を与えるとして、東北電はその評価に基き、地震動を600ガルとしてきた。一方、これまでの審査で、地質構造からほかの活断層が存在する可能性が浮上。このため東北電は横浜断層とは別に長さ20キロ、地中で東側に傾く仮想断層を設定し、この場合地震動は最大654ガルになると想定。原子力規制委員会のおおむね同意と評価した。一部議論が残るため、東北電は現時点で明言を避けるが、これまで検討した地震動を包摂する基準地震動

審査申請から8年を経過した東北電力東通原発
2017年、東通村

2022/6/11 デーリー東北

東北電の戦力配分の問題

東通原発審査8年 規制委員長が見解

原子力規制委員会の更田豊志委員長は8日の定例記者会見で、東北電力東通原発1号機（東通村）の安全審査が長期化している要因について、「女川（原発2号機・宮城県）と東通に対する東北電の戦力配分の問題



記者会見で質問に答える更田委員長。8日、東京都内

題に尽きる」との見解を示した。東通原発は2014年6月の審査申請から10日

で8年となる。東北電が再稼働を目指す東通原発の新規制基準適合性審査は現在、耐震設計の目安となる揺れ「基準地震動」の策定へ向けた議論が続く。原発の停止期間は11年を超えたが、合格の見通しはいまだ立っていない。東北電は24年2月の再稼働を掲げる女川原発に人員など審査対応を注力している。更田委員長は地震・津波審査と大別される設備面

のプラント審査について「始まっている理由が東北電の兵力配分が最も大きい」と指摘した。一方で規制委員側の審査体制については「準備ができている。東北電の意思が整えばやれる状態にある」と述べた。（佐々木大輔）

高レベル処分場選定
火山や活断層を回避
安全要件、規制委了承
原子力規制委員会は8

2022/6/9 東奥日報